里山シンポジウム実行委員会議事録(案)　2005/6/23（第 10 回）

事務局　荒尾 稔作成

日時　2005/6/23
本日　第 10 回目の委員会会議が行われました
会場　千葉市中央コミニテイーセンター5f
時間　午後６時より９時まで

参加者：
金親博榮、小西由希子、栗原祐治、中村俊彦、我孫子市より２名（大畑照幸、木下)、荒尾 稔
委員：上善峰男／林みね子／稗田忠弘／福満美代子／田中昭夫／田代武男／田中正彦／横山武／遠藤勇／遠藤陽子／中野真樹子／桑波田和子／相馬 由起子／小島 望／川上 寿子／横田耕明／内山真義

総括
今回は、小西さんの発案で３グループに分かれて、第２回里山シンポジウムでの経過を踏み、その反省点、良かったこと、考えるべき事、今後そうあるべきか等、里山シンポジウム実行委員会の過去、現在、未来を時間をかけて語り合った。
各グループ討議の結果を、報告しあいました。（７の項目）
その過程で、最後にちば里山センターとの関係をどう見るべきか、今後どうすべきかに関する議論がわき起こりました。金親代表が、一度みどり推進課と話し合いの場をもち、その後今後のことを考えようということになりました。

議題
１.経過報告：分科会・全大会は終了した。
オプションとして以下の活動がまだあります。
6 月 25 日　残土産廃シンポジウム（市原市）　残土産廃分科会
7 月 11 日　里山と水田・稲作分科会　第４回田んぼの生き物調査

２.経費・精算：相馬さんより、請求が未だ届かないところがある。支払いが急ぎ必要な方はその旨いっていただけると現金書留や振込で対応しますとのこと。それ以外は、次回の実行委員会でお渡ししますとのことでした。金親博榮さんより、ちば里山センター堀田さんが体調不良で参加出来ない為、現金がまだ届いていないためとの説明あり。

３.報告書原稿：作成経過の報告（５分）資料配付　　荒尾事務局長よりの報告
・　各分科会で配布した資料を事務局（荒尾）へお送り願いたい。
また、当日発表の PP などを JPG にして事務局に発信していただきたい。
(その際、発表者に必ず了解を得ること)
・　今後の方向として、分科会資料は、分科会毎に HP で保管し、順次アーカイブスとして公開していく方針と前回の会議で合意されており、第２回里山シンポジウム報告書は、今後中村俊彦氏を中心に複数メンバで作成する方針で、先日フォーマットを事務局から発信済み。
・　今回、そのフオーマットに基づく書式での、現状を工程表として荒尾から、提示された。

４.ちば里山センター総会の報告
・ 6 月 12 日(日)総会が開催された
里山シンポジウム実行委員会として正会員として加盟しており、金親博榮会長が代表として参加。
日本雁を保護する会 荒尾 稔 も正会員資格で参加した。その経過報告が２人よりされた
・ 荒尾よりも参加した経過と、内容報告
一般的な市民社会での古い形式での総会のままで、誰も発言しない結果で終わった。しかし前面ひな壇に、みどり推進課と、緑化推進委員会の主要メンバー４人がでんと座って相対し、金親博榮氏が議長に推挙されて、堀田さんが議事進行する形で、しゃんしゃんと形式的に終わったことを報告。
・　質問は１件　里山の手入れの機械化で、保険が一般のイベント型が使えず、１人 450 円、１団体 30

万円を超す負担金で、里山の手入れが実質出来なくなりかけているが、県の支援を求める件のみ

5　里山シンポジウム実行委員会の組織に関して

・　代表、副代表について、自薦他薦を求めたが、特にお申し出下さる方がありませんでした。
人を増やしてはどうかとの意見あり。結論は先送り。

・　里山シンポジウム実行委員会は緩やか関係で、規約なしの任意団体として継続する

6 .今後の日程、打ち上げ式

・　次回実行委員会　未定のまま、今回と同じ場所で開催予定
・　打ち上げ会　　7月 16～17 日のいずれか、金親博榮会長のキャンプ場にて予定する

7　第２回里山シンポジウムの反省会及び今後の展開に関し（３グループに別れ、ふりかえりシート記入）

(1)　シンポジウムで良かったこと

・良いメンバーの方々と、全力で仕事が出来たこと
・多面的な価値観、
・分科会が各地に広がって、県全域で開催できた
・分科会やイベントなどの日程をずらして開催したこと
・地域の問題を地域で扱ったこと（現地参加型で地域住民が出てきた）
・講演会・分科会のレベルも高くよかった
・我孫子市や丸山町など熱心な市町村の行政との連携と協働が出来、協働パートナーシップの出発点となった（行政や大学との協力関係が築けた）たこと。
・体験型はよい。すばらしい現場をいくつも拝見出来たこと。
・出会い、交流範囲の拡大が図れ、里山仲間が広がった
・市民と農民とのコミニケーションが深まった。住民が加わって来だしていること
・大学の協力
・２才～75 才まで、参加者年齢に幅が広がった
・「こども」のキーワードが良かった
・子どもの企画したイベントも
・我孫子市さんが多大なご協力をくださったこと
・市町村との連携が取れだしてきたこと／市民と農家の方々との思いが近づいた
・大学の協力が得られた／高校生の参加が良かった（茂原農業高校／中央学院高校）

(2)　シンポジウムで残念な事

・準備・PR 不足であった
・県行政、及びちば里山センターの野外体験行事が重なった事など、関係が不明確になった
・現場への参加者不在（特に行政業や教員）
・広報活動の弱さ、実感。PR 不足。県の広報誌に系指された直後の反応の強さと、
・協賛団体が取り込めてない
・参加者が少ない（田植えとの重なり→農家）、日程調整が悪かった
・半日の分科会は満足度が低かった。（時間不足も）
・地権者、とくに農業や林業からの参加者が少なく、まだまだ接点が弱い
・県行政との関係が薄れた。
・我孫子市に迷惑をかけた
・子どもと里山の団体間調整
・自分の活動だけで目一杯であった
・全体会（事務）の詰めが甘かった
・主催者が直前までころころかわった
・千葉市の協力が得られなかった←情報不足か？
・予算についての情報が不確定であった
・現場を担う人が参加者として来ていない

(3)　来年もシンポジウムをやりたいですか
・ゆるやかなつながりをもった集まりならば良し
・開催時期の配慮が必要。何も５月にこだわること無し
・継続こそ力なり。やるべきかと。
・今年の反省点を活かしてつぎにつなげられるのならやってもいい

(4)　今後「里山シンポジウム実行委員会」でやりたいことはどんなことですか
・無関心なひとびとに広げる
・重点地域を造る
・千葉以外の効果、講習会開催、学習会も
・会議に時間の検討を
・泊まりがけのシンポジウムは良かった。
・県や市町村など行政との関わりを深める
・現場の里山保全を充実させる
・近県との交流
・文化
・長期展望をたてて臨む
・県民が一体となってやれるものにしたい
・重点地域を毎年決めていく
・今注目されている「縄文文化」とからめていきたい
・行政とのつながりを強める
・ここで上げられた意見は次回以降掘り下げていく。

(5)　実行委員会のこれから
・ちば里山センターとの関係をどうするか
・ゆるやかなつながり
・この会の社会的なステータスを上げる
・行政との接点を深める
・社会を変える組織になっていく　→　連合組織
・時期や日程をもっと柔軟にとらえたい
・千葉県だけでなく首都圏にもひろげてはどうか
・里山に関する知識や技術の学習会をやりたい
・現場でやる

(6)　組織に関して
・里山の労力を呼び込む（里山十字軍）
・ニートの活躍も
・実務者（現場を担う人）を組織としてとりこみたい（会議の時間設定を変えるなどして現場の人も呼び込めるようにしたい）